

## AI インクルージョン推進会議

### 第1回

### 議事概要

#### 1. 日時

平成31年2月15日（金）10:00～12:00

#### 2. 場所

中央合同庁舎第2号館 7階 総務省 省議室

#### 3. 出席者

##### (1) 構成員

北野座長、秋山構成員、安宅構成員、ビール構成員、梅屋構成員、岡崎構成員、スィンハ構成員、末松構成員、増島構成員

##### (2) 総務省

安藤大臣官房総括審議官、赤澤大臣官房審議官、今川情報流通行政局情報通信政策課長、犬童情報流通行政局情報流通振興課長、櫻井情報流通行政局情報流通振興課企画官、井上情報通信政策研究所長、香月情報通信政策研究所調査研究部長、小川情報通信政策研究所調査研究部主任研究官、

##### (3) オブザーバー

総務省国際戦略局技術政策課、総務省自治行政局地域力創造グループ地域政策課、観光庁参事官（外客受入担当）

#### 4. 議事概要

##### (1) 座長挨拶

本推進会議の開催に当たり、北野座長より挨拶が行われた。

(概要) 政府の「AI 戦略」の目標の一つに「多様性を内包する持続可能な社会を作る」とあり、これは重要なポイントである。様々なバックグラウンドやライフスタイルを持った外国人の課題を幅広くとらえて、外国人のニーズに対して、制度や日本人のマインドセット、行動をどう変えるのか、また、今使える技術、新しい技術開発、これらを活用した具体的プロジェクトを考えていきたい。

本推進会議では、ニーズサイドのベネフィットを中心に据えて、サプライサイドの視点と連携できるよう議論を進めたい。日本でも多様なライフスタイルを選べると外国人が思えるような社会を実現したいと考える。

##### (2) 開催要項等

事務局より、資料1の開催要綱の確認を行い、資料2の今後の検討事項及び検討の進め方等について説明が行われた。

##### (3) 我が国に生活・滞在する外国人の現状と外国人が生活・滞在する上での課題

事務局より、資料3に基づき説明が行われた。

##### (4) 意見交換

###### 【秋山構成員】

- ・ 「外国人」を最初の具体的なケースとすることで、都市と地方の課題や女性活躍の課題など、他のインクルージョンの議論にもつながるため、有益であると考えます。テクノロジーによるソリューションは、今やっていることをそのまま置き換えてはうまくいかないと思うので、**How**を再定義し、**What**や**Why**を見直すことが必要。具体的には言葉の問題、キャッシュレス決済、ツールとしてスマートフォンの活用を考えたい。

###### 【安宅構成員】

- ・ どんな未来を実現したいかを考えることが重要である。未来の課題として生産年齢人口の減少を考えると、専門家やリーダー層の受け入れの増加やその家族の対応が課題である。地域として都市の「郊外」を考える必要がある。また、フェーズとして、直近、3から5年先、10年、20年先の3つがあり、長期的視点で考えることが重要である。

#### 【ビール構成員】

- ・ 言語やコミュニケーションをはじめとする外国人が抱える様々な課題の解決に、技術がどう貢献できるか考えるべきである。教育や人材育成にも関心がある。外国人だけでなく、受け入れる側の日本人の社会をどう変えていくかが大きな課題の一つと考える。

#### 【梅屋構成員】

- ・ 既に地方では外国人がいなければ経済が立ち行かない状況にある。一方で、地方では相談センター等へのアクセスが難しく対応を強化する必要がある。ICTを活用して外国人対応を改善し、日本に来てよかったと思ってもらえるようにすることが優秀な人材の誘致のためにも重要である。

#### 【岡崎構成員】

- ・ 外国人対応の問題には、コミュニケーション、広報、教育の3つの側面があると考えられる。機械翻訳は、特定の分野では性能が上がってきている。対話型のサービスに翻訳をどう入れるかを考えるべき。広報は、ニーズ把握のためにもSNSやWebデータの分析を行い、自治体による生活情報のFAQ等を共通化するイニシアティブが重要である。

#### 【スィンハ構成員】

- ・ 日本は極めて良い国であり、その良さをどう継続していくかの視点で考えたい。入国前の教育で日本の良さを理解できる外国人材を育てるべきだと思う。優秀な留学生の日本における就職をサポートする必要がある。日本は、国際協力のイニシアティブをとり、安全で貧富の差が小さく、弱い人を大事にする国であるということを海外に広げて欲しい。

#### 【末松構成員】

- ・ 長期的課題としては、選ばれる日本を作ることが重要であり、日本のエバンジェリストとなってくれるような若年層を留学生として受け入れることが重要である。短期的課題としては、災害発生時の情報発信のプラットフォームを整備することが重要であり、在日大使館や英字紙のネットワークが活用できるのではないかと考えている。

#### 【増島構成員】

- ・ 日本社会が専門家やリーダー層、基礎労働力層、観光客に何を求めているかを意識しながら、AI活用のメリットを整理していく必要がある。多様性が

もたらすリスクをマネジメントする方法や、社会統合政策をどう効率よく各地方で実施していくべきかについても考えることが重要である。

【北野座長】

- ・ 各構成員の発言を聞いて、今後のインクルージョンテクノロジーの議論における重要なポイントが明らかになったと考える。日本において目指すべき共生社会の検討や、自治体の窓口等どの分野の多言語対応を強化するかの検討、そして様々な外国人が日本に来て良かったと言われる社会を目指したい。AIによるリアルタイムデータアナリティクスや、ブロックチェーン技術の活用、外国人向け医療サービスの充実等、検討すべき様々な事項がある。こうした検討をしながら、本推進会議では、具体的な課題解決プロジェクトを描き、一定期間で報告をまとめていきたい。

(5) 総務省挨拶

安藤大臣官房総括審議官より、AIをインクルージョンテクノロジーと定義づけることに感銘した旨及び具体的な課題解決プロジェクトの提案に期待する旨の発言があった。